

●太陽熱及び太陽光の利用

南面する特別養護老人ホーム棟の各ユニットの屋根を利用し、太陽熱利用のバッシブソーラーシステムによって暖房、換気、排気、お湯とりを電気を使わず自立運転します。同じく屋根を使い太陽光発電パネルを乗せ、集熱と発電を同時に行い、施設の使用電力の一部も賄います。

村の自然エネルギーを活かし、 環境と省エネルギーに配慮



●木質バイオマスの利用

木質資源利用ボイラー施設導入により、間伐で山から運び出した林地残材や、小径木などの未利用材を燃料とし、村内にある豊富なエネルギーとして薪ボイラーを使用し、化石燃料の削減や森林資源の循環利用等環境にも配慮しました。



概要

施設／(1)地域密着型特別養護老人ホーム 29床 (2)短期入所施設 4床 (3)通所介護施設 最大40名 対応可 他構造／木造平屋建 準耐火構造

面積／特養棟 1,139.20㎡ デイサービス棟 1,096.83㎡ 木質バイオマス棟 124.25㎡ 合計面積 2,360.28㎡

主な事業名

- 平成25年度 木造公共施設整備事業根羽村高齢者安心生活空間施設建設工事
県産材供給体制整備事業木質資源利用ボイラー施設整備工事
- 平成26年度 介護基盤緊急整備等特別対策事業地域密着型特別養護老人ホーム建設工事
地域密着型特別養護老人ホームバッシブソーラー建設工事
社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)赤坂地区修景整備工事
村単赤坂地区修景整備(上段駐車場)工事

単位:千円

区分	事業費内訳	歳出					歳入				
		設計監理	工事費	木材調達	地質調査	備品類	計	補助金	起債	交付金	一般財源
管理・デイサービス棟	31,253	407,962	40,950	-	-	480,165	130,410	187,500	-	162,255	480,165
特養棟・バッシブソーラー	34,290	474,984	51,354	2,625	17,928	581,181	147,991	299,200	131,550	2,440	581,181
木質ボイラー棟	10,590	114,264	-	-	2,268	127,122	46,000	34,900	-	46,222	127,122
修景整備	3,228	41,970	-	-	-	45,198	11,055	17,800	16,290	53	45,198
合計	79,361	1,039,180	92,304	2,625	20,196	1,233,666	335,456	539,400	147,840	210,970	1,233,666

お問い合わせ先 根羽村役場

住所:長野県下伊那郡根羽村1762 TEL:0265-49-2111 FAX:0265-49-2277 E-mail:juumin4102@nebamura.jp



根羽村高齢者福祉施設

ねばねの里「なごみ」





ごあいさつ

このたび、根羽村高齢者福祉施設「ねばねの里なごみ」関連施設が、関係各位のご理解とご協力により、立派に竣工の運びとなりましたことに厚く感謝と御礼を申し上げます。

当村では、平成7年から村社協で在宅サービスを行ってききましたが、高齢化率の上昇とともに入所可能な地域密着型サービスの整備が必要となってくる中で、それぞれのサービスを一体的に行える「ねばねの里なごみ」が完成するに至りました。この施設の完成により、村民の

皆様が安心して地域に住み続けられる環境が整いました。今後、この施設が有効に活用されるとともに、様々な機能を発揮して頂けるものと期待するところであります。

本事業に関係されました皆様方の多大なご苦勞に対して御礼申し上げあいさつと致します。

根羽村村長 大久保憲一

高齢者福祉施設の拠点

- ねばねの里「なごみ」は、村民をはじめ全ての利用者が「自分の家」「自分の地域」と思って安心してありのままに、その人らしく過ごせることを願って計画しました。
- そのパートナーであるスタッフにとっては、利便性が高く入居者の、その人らしい暮らしを支えながら誇りを持って働ける職場づくりを目指して計画しました。

村民の交流機会の拡大

- 入居者・利用者とスタッフが共に輝き、おだやかな暮らしを継続し、地域に密着した「世代を越えた村人たちの交流の場」づくりのモデルとなることを願って計画しました。



デイホール

●日帰りのデイサービス施設の中心となるデイホールは閉じこもりにながちな高齢者が大勢集まって、おしゃべりしたり、歌ったり、体操したり、一日楽しく過ごして、リフレッシュできる空間です。根羽産のヒノキの丸太柱や明るい色使いの家具で、森の中にいるようなイメージをつくりました。また、静養室や地域交流サロン、大きな廊下や陽だまりテラスと緩やかにつなげることで、明るく広がりのある空間としました。



ユニット(茶臼・大杉・矢作・亀甲)

- 単調な高齢者施設としてではなく、一つの大きな「家」と感じられるように、共同生活室を「居間」と位置づけ、その周囲に変化を持たせながら居室を配置しました。
- 各居室が面する廊下の上部に、自然の光と風が通り抜ける越屋根の吹抜け空間を設けることで、明るく開放的な居住環境を実現しました。
- 居室を南北に配置した場合、北側居室の日当たりが悪くなりますが、自然の光と風が通り抜ける吹抜け空間から、北側居室にも自然光が差し込む配置としました。
- 太陽熱や太陽光、木質バイオマスなど、再生可能なエネルギーを積極的に利用しました。
- 居室の床下暖房や浴室の床暖房に薪ボイラーで暖めた温水を循環することで、省エネルギーに配慮しました。
- 各ユニットの南面の屋根にパッシブソーラーシステムを搭載し、太陽熱を冬季の暖房に用いるとともに、夏季はお湯採りを行い浴室やキッチンに給湯に用いています。
- 太陽光発電も同時に行い、施設の使用電力の一部を賅うようにしました。



居室

- 基準面積にほぼ近く、中廊下として全体の面積を抑えてコンパクト化にしました。
- ベッド周り3方向の空気を確保し、介護のしやすい居室としました。
- 家具を持ち込んだり、ベッドの配置を変えられる広さを確保し、愛着を持ち、自分の家と自覚できる配置としました。
- 根羽産の木材や珪藻土壁、障子の和紙など自然素材を用いることで、普通の民家のような暖かみのある雰囲気としました。



各ユニット間に位置付け、緊急時の対応やスタッフの夜間業務の負担軽減に配慮しました。



越屋根の吹抜けや、出入口上部にガラス欄干を設けることで、明るい自然光が差し込むよう居住環境に配慮しました。



壁に根羽産の桧板を張り、床暖房を設備するなど、暖かく、リラックスしながら入浴できる空間としました。



中庭に面して配置し、対面キッチンやタタミの小上がりを設けることで、庭を眺めながら楽しく食事や団欒ができる、自分の家の「居間」のような雰囲気としました。



北端の静かな位置に配置し、落ち着いた雰囲気の内装としました。



利用者・訪問者の出入りや動きを把握できる見通しの効く開放的な空間としました。また、利用者・訪問者に対応しやすいオープンな受付カウンターや車椅子利用者に対応する低いカウンターも備えました。

地域密着型特別養護老人ホーム棟



自然光が入る吹抜けのある明るく清潔感のある空間とするともに、利用者の救急対応に配慮し、管理・救急動線の近くに配置しました。

デイ ロビー

玄関に入ると、天井や床の木材や土壁などの自然素材が目飛び込み、利用者や訪問者を暖かい雰囲気でお迎えする空間にしました。また、古材の大きな大黒柱や梁を象徴的に用い、昔ながらの古民家を想わせる吹抜け空間を設け、その周りにベンチ、新ストーブ、書棚を置くことで、くつろぎながら、ゆったりと会話ができるよう配置しました。

デイ 宿直室

施設内の管理だけでなく夜間の緊急対応を考慮した位置に配置しました。

デイ 陽だまりテラス

利用者の交流やリフレッシュの場として、中庭や山並みを眺望できる、日よけ雨よけ付きのテラスとしました。

デイサービス・管理棟

木質バイオマスボイラー棟



デイホールに隣接して設け、開放的な可動間仕切で区切り、気配を感じながらも静かな環境を用意しました。



多くの利用者の交流の場、情報交換・発信の拠点となるよう、正面出入口に隣接する配置としました。



施設の南端に配置し、外からの食材等の搬入などサービス動線に配慮するとともに、検収→下処理→調理→配膳→洗浄というスムーズな流れとし、スタッフの負担軽減に配慮しました。



壁に根羽産の桧板を張り、床暖房を設備するなど、暖かく、リラックスしながら入浴できる空間としました。